



学校保健委員会だより



令和5年10月16日

令和5年10月3日（火）午後1時～2時、本校研修室で第一回学校保健委員会が開催されました。本校職員や学級役員さんだけでなく、学校歯科医の石原純先生や学校薬剤師の栗原啓介先生をお招きしました。また、スクールカウンセラーの森本興子先生に「親子のコミュニケーションについて考えてみましょう」というテーマで、講話をいただきました。本校職員の話だけでなく、それぞれの先生方にお話しいただいたことによって、学校・家庭・地域で情報を共有する場となりました。今回は、その様子を御紹介します。



体育では「運動が苦手な子も楽しめる体育授業」をテーマにし、学習しています。教材やねらいを簡易化・焦点化して運動の特性を全員が味わうことができるように工夫しています。（田中教諭）

発達段階に応じたICTの活用をしています。使い方のマニュアルとして、北小の約束を各教室に掲示したり家庭へ配布したりしております。安全に使用できるよう、ぜひ御家庭でも話題にして下さい。（赤沢教諭）



保健室の来室は1日平均10人前後です。多い時は20人近くの来室があります。外での活動に制限がなくなり元気いっぱい体を動かしている証拠ですね。（水戸養護教諭）



学校給食は児童の発達に応じて、必要な栄養価を計算して献立作成をしています。北小では毎日残食が出ています。健康な体で成長するためにも、食の大切さを御家庭で話題にしてみてください。（木村栄養教諭）

学校歯科医・石原先生

むし歯の治療は、児童だけではどうすることもできません。保護者のみなさんの協力が必要不可欠です。まだ、むし歯治療を始めていない場合には、歯医者へ行って、治療してもらいましょう。

学校薬剤師・栗原先生

これから寒くなり、温かさを保つために窓を閉めることが多くなります。しかし、窓を閉め切っていると、空気が循環せず新鮮な空気を取り入れることができません。寒さ対策もしないといけませんので窓は全開ではなく、感染症対策の面からも、対角線になるように窓を開けましょう。

スクールカウンセラー森本興子先生
講話「親子のコミュニケーションについて考えてみましょう」



前半は、現代の小学生の知識を深めるために、今どきの子供たちは、どのような社会環境の中で生きているかをお話頂きました。



現代の日本の若者・子供たちは、基本的な生活習慣の乱れ、自尊心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向があります。一方で、柔軟で豊かな感性や国際性を備えたりボランティア活動への参加や社会貢献への高い意欲をもつ者が多く現れたりするなどの積極性が見受けられます。

後半は、教員による、コミュニケーションのデモンストレーション（子供役と親役）を行い、家庭で子供の話を聞く態度について、考えました。

その①ノーリアクション

例：ふーん（スマホをいじりながら）

その②高圧的な感じの返事

例：何言ってるの！○○すればいいの！分かった？

その③受容的・共感的に聞きながら肯定的な返事

例：そうなんだ。なんで嫌なの？

そっか。○○が嫌だったのね。そういう日のあるよね。

頑張っているんだね。立派だね。お母さんは○○だと思うな。



家庭内における親子のコミュニケーションはとても大切です。子供たちは人との関わり方について、まずは親をモデルにして学ぶからです。

子供が話してくれた時には、「でもさ」等の否定はせず、子供の話したくなった気持ちを肯定的に受け止めてあげることが大切です。コミュニケーションは相互作用です。相互作用のコミュニケーションを家庭内で肌感覚で学ぶことは、人生の基礎と言っても大袈裟ではないと思われます。一方的なコミュニケーションしか体験していないと、相互作用のコミュニケーションを学ぶモデリングが得られません。まずは、家庭内で相互作用のコミュニケーションを実践していただけるといいなと思います。

★参加した保護者の方々の感想

- 学校で子供達がどのように授業に取り組んでいるのか、健康面について、子供たちとの関わり方について等を知れて有意義な時間でした。
- 親子のコミュニケーションは日常の中にありふれているのに、今まであまり気にかけてやり取りをしていなかったなと思いました。今回何気ないやり取りの中でも、子は親の声色ひとつでいろんな情報を感じ取っていると気付きました。人間対人間なので互いに日々感情が違っても、親は心に余裕をなるべく持って子と向き合っていければいいなと思いました。
- 学校の取り組みや、子供たちの受けている授業の様子、カウンセラーの方のお話を聞いて大変勉強になりました。みんなで楽しめる体育の柔軟なルール決めは、普段の遊びにも家族で取り組めると感じました。